

この舞台はバレエの歴史を変える



CLEOPATRA



浅川紫織 スチュアート・キャンディ 宮尾俊太郎



中村祥子 遅沢佑介 篠宮佑一



杉野 慧 山本雅也 栗山 廉

チケット
好評発売中!

会場	Bunkamura オーチャードホール			
日程 開演	10/6(金) 18:30	10/7(土) 13:30	10/8(日) 13:30	10/9(月・祝) 13:30
クレオパトラ	中村祥子	浅川紫織	中村祥子	浅川紫織
ブトレマイオス	山本雅也	篠宮佑一	山本雅也	篠宮佑一
カエサル	S.キャンディ	S.キャンディ	S.キャンディ	S.キャンディ
アントニウス	宮尾俊太郎	栗山 廉	宮尾俊太郎	栗山 廉
オクタヴィアヌス	遅沢佑介	杉野 慧	遅沢佑介	杉野 慧

会場	東京文化会館 大ホール			
日程 開演	10/20(金) 14:00	10/21(土) 12:30	10/21(土) 16:30	10/22(日) 13:30
クレオパトラ	中村祥子	浅川紫織	中村祥子	浅川紫織
ブトレマイオス	山本雅也	篠宮佑一	山本雅也	篠宮佑一
カエサル	S.キャンディ	S.キャンディ	S.キャンディ	S.キャンディ
アントニウス	宮尾俊太郎	栗山 廉	宮尾俊太郎	栗山 廉
オクタヴィアヌス	遅沢佑介	杉野 慧	遅沢佑介	杉野 慧

会場	Bunkamura オーチャードホール		
日程 開演	10/28(土) 12:30	10/28(土) 16:30	10/29(日) 13:30
クレオパトラ	浅川紫織	中村祥子	中村祥子
ブトレマイオス	篠宮佑一	山本雅也	山本雅也
カエサル	S.キャンディ	S.キャンディ	S.キャンディ
アントニウス	宮尾俊太郎	宮尾俊太郎	宮尾俊太郎
オクタヴィアヌス	杉野 慧	遅沢佑介	遅沢佑介

2017年
10月6日(金)～9日(月・祝)・28日(土)・29日(日)
Bunkamura オーチャードホール

10月20日(金)～22日(日) 東京文化会館 大ホール
料金(税込):S席¥16,000/A席¥12,000/B席¥8,000/C席¥6,000/D席¥4,000(東京文化会館のみ)

〈お問い合わせ・ご予約〉
チケットスペース 03-3234-9999 <http://www.ints.co.jp/>
〈公演に関する詳細〉 <http://www.k-ballet.co.jp/>

〈チケット取り扱い〉 チケットスペース 03-3234-9999 [チケットスペースオンライン](#) [検索](#)
TBS オンラインチケット [TBS 熊川](#) [検索](#)
Bunkamura チケットセンター 03-3477-9999 (10:00-17:30) (オーチャードホール公演のみ)
オンラインチケット MY Bunkamura [MY Bunkamura](#) [検索](#) (オーチャードホール公演のみ)
チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード: Bunkamura 458-916/東京文化会館 458-917)
<http://w.pia.jp/t/k-ballet/>
ローソンチケット 0570-000-407 (オペレーター) (Lコード: 31552) <http://l-tike.com/k-ballet/>
イープラス <http://eplus.jp/kumakawa/>
東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650 (東京文化会館公演のみ)

○キャスト予定は2017年4月24日現在。出演者の病気や怪我など、やむを得ない事情により変更となる場合があります。最新のキャスト情報は <http://k-ballet.co.jp/company> にてご確認ください。公演中止の場合を除き、実施するすべての公演に関して、主催者をはじめとするキャスト変更に伴うチケット代金の払い戻し、公演日や券種の変更は原則としてお受けできませんので、あらかじめご了承ください。○公演中止の場合の振替、チケット送料等の補償はいたしません。○本公演は5歳以上の入場が可能です。但し、お席は必要です。○演出上開演後の入場は制限させていただく場合があります。○開演は開演の30分前。

〈その他の公演地〉
[愛知] 10/12(木) 愛知県芸術劇場 大ホール
[大阪] 10/14(土) フェスティバルホール

主催: TBS/Bunkamura (オーチャードホール公演) 特別協賛: 大和ハウス工業株式会社
後援: BS-TBS オフィシャルエアライン: ANA
制作: K-BALLET/TBS/Bunkamura 美しい時代へ—— 東急グループ

◎指揮: 井田勝大 ◎管弦楽: シアター オーケストラトキョー
Photographs: Toru Hiraiwa/Shunki Ogawa - Hair Make: Tatsuya Nishioka



DaiwaHouse PRESENTS
Tetsuya Kumakawa K-BALLET COMPANY
Autumn Tour 2017

クレオパトラ

世界初演

熊川哲也 Kバレエ カンパニー

今最高の振付家・熊川哲也が創る、世紀のグランド・バレエ——『クレオパトラ』世界初演!!

名だたる古典バレエを自身のプロダクションとして生まれ変わらせた熊川哲也が「新境地を拓いた意欲作」と評された『カルメン』の発表から3年——次なる題材に選んだのが『クレオパトラ』だ。ビゼーの名作オペラを典拠にバレエ化した前作とは異なり、原作も音楽も存在しない全幕作品に着手するのは初めてのこと。熊川は紀元前のエジプトとローマを股に掛けた壮大な史実を紐解きオリジナルのストーリーを構築、全2幕5場にわたるグランド・バレエに仕立てるといふ。絶世の美女とされるその名はあまりに有名でありながら、彼女を取り巻く歴史はまだまだ多くの謎に包まれている。過去11作品のプロダクションで実証されてきたストーリーテラーとしての力量をフルに発揮し、今、熊川がその“謎”を独自の視点で解き明かす!



舞台美術デザインには、メトロポリタン歌劇場 (MET) やミラノ・スカラ座にも度々招かれるなど世界の一流オペラ劇場でも引っ張りだこ、直近ではMETの『ルサルカ』新制作を成功に導いたダニエル・オストリングを起用。熊川との初コラボレーションとなった『カルメン』ではバレエの舞台における既存概念を打ち破る斬新な空間を生み出した。事実、熊川も「その空間ありきでクリエイションを進めることで、これまで思いもよらなかった新たな振付の手法が生まれた」と語っている。時代考証を踏まえながらも、削ぎ落とされた美が観客の想像力を刺激する——そんなオストリングならではの流儀が、2つの大国をめぐるこの舞台では大いに生きるはずだ。



バレエにとって最も重要であり、作り手の創造力、ひいてはダンサーの表現をも左右する音楽は、デンマークの大作曲家カール・ニールセンの楽曲で構成される。たとえば『海賊』(2007年初演)に代表されるように、これまで歴史の中で埋もれていた楽曲を発掘・採用し、作品を新鮮に蘇らせるなど音楽面でもバレエ界に一石を投じてきた熊川。本作はその手腕と経験の結晶となるだろう。

Kumakawa's Production of "Cleopatra" STORY

紀元前1世紀、エジプトの首都アレクサンドリア。絶世の美女と誉れ高いクレオパトラは、父王プトレマイオス12世亡き後、200年以上にわたるこの王朝の慣例に則り、弟のプトレマイオス13世と結婚、共同で王位に就いていた。とはいえプトレマイオスはまだ少年。事実上、実権を握っているのはクレオパトラだ。王としての教育を受けながらも子供気分が抜けないプトレマイオスに、後見人である廷臣たちは自覚を芽生えさせる。そして姉の政治介入を嫌う弟とその一派は、クレオパトラを排除しようとしていた。

そんな折、共和制のローマで三頭政治を形成していたカエサルとポンペイウスの間に戦争が起こる。カエサルに敗れてエジプトに逃げ込んできたポンペイウスをクレオパトラは介抱する。男たちの心を虜にしてやまない彼女の美しさにポンペイウスもまた魅了される。だが、第一派はポンペイウスを暗殺。そして自分を殺害しようとする弟たちからクレオパトラは逃れる。

王位を奪われたクレオパトラだが、自らの魔性の美貌が男たちの心を捕らえるだけでなく、政治の武器とさえなることを、彼女は誰よりも知っていた。ポンペイウスを追ってアレクサンドリアにやって来たカエサルに、クレオパトラは王位奪還の協力を得るため直訴しようと画策する。弟たちに悟られずカエサルに会うため、クレオパトラはその身を犠牲にするみ、貢物を献上するという口実で彼の前に姿を現す。聡明で美しく、目的のためには危険も厭わないクレオパトラに、カエサルは瞬間に心奪われる。クレオパトラは王位を再び手中に収め、カエサルへの反撃に出た弟プトレマイオスは命を落とす。

カエサルがローマの最高権力者となり、彼との間に子をもうけたクレオパトラは、エジプトのファラオとしてのみならず、我が子がやがてローマを治める野望をも抱き、まさに絶頂期を迎える。だが、幸せは長くは続かなかった。腹心ブルータスらによるカエサルの暗殺、カエサル亡き後のローマで実権を握ることとなったアントニウスとの恋、我こそはカエサルの正統後継者であると主張するオクタヴィアヌスとの決戦……

そして激動の人生を生き抜いたクレオパトラに、最期の時が訪れる——。

熊川作品の振付は緻密で難度が高いとダンサーたちは言う。マエストロも感服する優れた耳が、一つのフレーズに対して与えるステップを密度の濃いものにし、自らの根底にあるダンサーとしての並外れた技術力がより高度なステップを生むのだ。そして前作『カルメン』では、時に大胆ともいべき振り幅で“型”を崩した振付を取り入れ、作品世界と登場人物のキャラクターを際立たせた。それもまた「新境地」と評された理由の一つである。だがもちろん、熊川にとってこれはあくまでクラシック・バレエとしての表現の追求にほかならない。振付作業が進行中の今現在、本作でさらに発展した表現に挑もうとしていることは明白だ。



オリジナル・キャストとしてタイトル・ロールを務めるのは中村祥子。世界を見渡しても稀有といえるその美しい身体、完璧という一語がふさわしいテクニック、存在感……そうした特質すべてがまさに女王そのもの。彼女の存在が熊川をクレオパトラという題材に着眼させたといっても過言ではない。だが、最高の素材を得てなお熊川は“その先にあるもの”を見据えている。今や名実共に世界の頂に立つこの名バレエのさらなる可能性を引き出そうとしているのだ。“今の中村祥子”を超えるクレオパトラを——。



Artistic Director: Tetsuya Kumakawa
Production/Choreography: Tetsuya Kumakawa
Music: Carl Nielsen
Set Design: Daniel Ostling
Costume Design: Ayako Maeda
Lighting Design: Hisashi Adachi

芸術監督: 熊川哲也

演出/振付: 熊川哲也 音楽: カール・ニールセン

舞台美術デザイン: ダニエル・オストリング 衣裳デザイン: 前田文子 照明デザイン: 足立恒

